

宇宙天気研究キャパシティ・ビルディング(能力強化)のための拠点形成について Formation of Preliminary Center for Capacity Building for Space Weather Research

湯元 清文^{1*}, 吉川 顕正¹, 河野 英昭¹, Liu Huixin¹, 渡辺 正和¹, 池田 昭大¹, 前田 丈二¹, 阿部 修司¹, 魚住 禎司¹
YUMOTO, Kiyohumi^{1*}, YOSHIKAWA, Akimasa¹, KAWANO, Hideaki¹, LIU, Huixin¹, WATANABE, Masakazu¹, IKEDA,
Akihiro¹, MAEDA George¹, ABE, Shuji¹, UOZUMI, Teiji¹

¹九州大学宙空環境研究センター

¹SERC, Kyushu University

九州大学宙空環境研究センターが推進している、国際拠点形成事業についての報告を行う。本研究拠点形成事業の最終目標は、国連宇宙平和利用委員会の下に実施されている、国際宇宙天気イニシアチブ (International Space Weather Initiative:ISWI) 事業の一貫として、アジア・アフリカ地域に於ける若手研究者の宇宙天気研究能力の強化と、日本側若手研究者の国際的な研究・教育能力の向上を目標とし、ISWS/MAGDAS School の開催や国際交流等を企画・推進することにより、全球的地磁気観測ネットワーク (MAGDAS;Magnetic,DataAcquisition System) を用いた国際的なヒューマンネットワークを確立し、国際宇宙天気キャパシティ・ビルディング (能力強化) 拠点を形成することにある。

ここで挙げるキャパシティ・ビルディング (能力強化) とは、アジア・アフリカ諸国に於ける MAGDAS 現地協力機関 (MAGDAS ホスト) 所属の若手研究者に対する (1) 機器設置・維持・観測能力、(2) データ解析能力、(3) 科学能力の強化を意味しており、各国地域特有の宇宙地球電磁気学現象を基本研究課題として設定することにより、交流の成果を共同観測研究への成果に結びつける計画である。

九州大学宙空環境研究センターでは ISWS/MAGDAS School を企画し、アジア・アフリカ諸国の MAGDAS ホスト若手研究者の観測研究能力の強化を図ると共に、日本側若手研究者を講師として派遣することにより、我が国の研究者の国際的研究教育能力の向上も図る。さらに、ホスト若手研究者を大学院留学生として九州大学大学院理学府でも受け入れ、アジア・アフリカ諸国との国際的宇宙天気ヒューマンネットワークの構築を目指す。

また、本国際交流では多国間・多機関にわたる MAGDAS ホスト同士の横の連携も重要視しており、コーディネータ (日本側拠点) と相手側研究機関の 1 対 1 の関係だけでなく、MAGDAS ホストが多機関連合 (コンソーシアム) を形成することによって、日本側拠点と長期的な交流の場の確立を目指している。

Keywords: International Space Weather Initiative, new Core-to-Core research program, Capacity Building, MAGDAS - Magnetic Data Acquisition System, ISWI/MAGDAS Schools